授業部門　中学校の部　エントリーNO.5

中２保健体育　バレーボール「“たまたま（偶然）を意図的（必然）に”役割分担×オクリンクプラスでデータを分析し客観的な視点に基づいた対話の実現へ」

オクリンクプラス

- **動画×分析コメントで運動をリアルタイム可視化、さらにデータの蓄積による新しい取り組み**
- **「要因（なぜ）／具体的事実／改善策」の振り返りテンプレート配付による、感想止まりを防ぐ省察の構造化**

活用背景・ねらい

集団球技（バレーボール）では、得意な生徒が中心にレシーブやアタックをし、苦手な生徒は「ただ参加しているだけ」になりやすかった。また、振り返りも「楽しかった」等の感想に留まり、たまたま返球した結果、得点する状態であり、**技能向上につながる分析的視点が不足していた。**そこで、学習指導要領で示される**運動への多様な関わり（「する・見る・知る・支える」）を、ICT を活用して可視化する**ことで、多角的思考でチームの現状を捉え、全ての生徒が主体的・対話的に授業に参画できる状態を目指した。

成果・効果

振り返りが抽象的な感想中心から、**動画と分析コメントを根拠に「なぜ成功／失敗したか」「次に何を変えるか」を論理的に書く記述へ変化した。**運動が苦手な生徒もアナリストとしてチームの勝利に貢献している実感**（自己有用感）が高まった。**さらに、蓄積データを分類・集計することで「サーブ・レシーブのミスが4割」など**共通課題を客観把握し、練習メニュー改善と個人の成長記録（エビデンス）として活用**できた。

授業・取り組みの流れ

①：ミスの蓄積で、個人/チームの目標設定へ
お試しのゲームを実施し、生徒たちの技能に合わせたルール設定する。**ゲーム→個人振り返り→チームミーテングのサイクルを重ねる。**教師は後に作戦会議に使える情報（ボールの軌道、立ち位置、声掛け、構え等の準備姿勢）に絞って観点を提示し、ゲームを撮影する。**プロの試合映像と比較しながら見通しをもつ。**

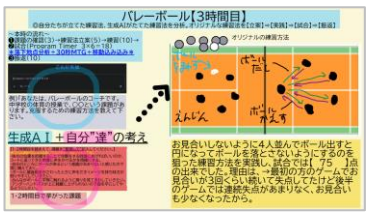
②：役割分担で全員を当事者にする
生徒は「プレーヤー（する）」だけでなく、「データアナリスト（見る・知る）」「サポーター（支える）」を担当する。**アナリスト／サポーターはタブレットでプレーを撮影し、オクリンクプラスのボードに成功・失敗の要因をその場で記録する。**教師は、得点場面と失点場面の両方が残るよう促し、データが偏らないよう調整する。

③：リアルタイム共有→すぐ改善
記録した動画や落下地点分析、ミスの種類分析をチーム内ミーテング時に見返し、次のセットで試す「作戦」を決める。教師は「何が根拠か（動画のどの瞬間か）」を問い返し、思いつきの指示ではなく、データに基づく改善にする。

④：テンプレートで振り返りを“分析文”にする
授業終末に、**オクリンクプラスで「要因（なぜ）／具体的事実／改善策」の枠に沿って振り返りを書く。**教師は、鋭い分析や的確な助言をした生徒を価値付け、プレー以外の貢献も評価する。

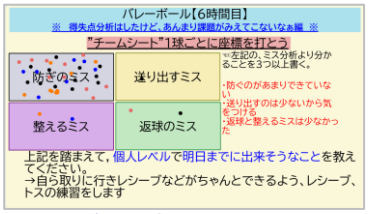
⑤ 次時以降：データを集計し、練習を更新する
蓄積した要因データを分類・集計し、チーム／学級の共通課題（例：特定のミスの比率）を示す。生徒は結果を踏まえて練習メニューを組み替え、個人の記録としても振り返りを重ね、改善の根拠を明確にする。

▲①＋②得失点の場面を蓄積し、個人/チームの目標設定に活かす



▲生成AIに課題を投げかけ、練習内容立案の参考に

▲③＋④落下地点を練習する前と後で比較し、どのように変化（変容）したかを対比・研究



▲⑤なぜ落球（失点）してしまったのか、さらに細かく集計・分類